

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2022~2023年度 No.277

1 月報

那須クラブ会長 主題

地域につなげ那須ワイズ IV



強調月間：EF
JEF

今月の聖句

いかに幸いなことでしょう。あなたによって勇気を出し、心に広い道を見つけている人は。

詩編 84 : 6

1月第1例会(新年例会)

日時：1月14日(土)午後2時~

場所：原田 晴子さん宅

栃木県塩谷郡塩谷町田所 2490

内容：新年の目標・抱負と会員増強について語ろう

司会：村田 榮副会長

開会点鐘 会長 河野 順子

聖書朗読・祈禱 司会者

ワイズソング斉唱 一同

ワイズ信条 斉唱 一同

会長挨拶・ゲスト紹介 会長 河野 順子

茶菓子を食べながら、今年の目標・抱負を語ろう

会員増強について

フリートーキング

YMCAの報告

ワイズの報告

閉会挨拶・点鐘 会長 河野 順子

メンバー・メネット 会費：500円

参加者は準備の都合がありますので、1月11日(水)までに村田まで。メールまたは電話(090-9095-4035)連絡をください

2022~2023年度 主題

国際会長：(IP) K・C・サミュエル(インド)

「フェロシップとインパクトで次の100年」

アジア太平洋地域会長：(AP) チェン・チ・ミン(台湾)

「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

東日本区理事：(RD) 佐藤 重良(甲府21)

「未来に向けて今すぐ行動しよう」

北東部長：大久保 知宏(宇都宮)

「クラブのミッションを育てよう」

クラブ役員

会長：河野 順子

副会長：村田 榮・田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：平山 雄大

ブリテン：田村 修也・村田 榮

12月例会データ(出席率：85.7%)

在籍者 7名

出席者 5名 メイキャップ 1名

メネット 2名 ゲスト 25名

12月 Happy Birthday

1/7 藤生 容子メネット

1/14 藤生 強メン

1/15 田村 暁美メネット

2月第2例会(役員会)

日時：1月27日(金)午後4時30分から

場所：田村副会長宅・ZOOM

2月第1例会(リーダー報告)

日時：未定

場所：西那須野教会

25周年記念東西日本区交流会

日時：2月4日~5日

場所：神戸

巻 頭 言

鈴木 保江

子育て奮闘記

12月末に長男の大学がきました。ほっとしたところです。ひとり暮らしはできないでしょう。自宅から通うそうです。朝も起こしてもらい食事準備してもらい大学に通うだけですが、できるでしょうか。

オープンキャンパスに参加した際は、「普通科はないの？」と聞いたぐらいです。自分で何をやりたいかがまだ見つからないそうです。大学に通いながら自分探しと将来の職業を見つけられればと思います。時間はかかりますが、自分の居場所を見つけたいと思います。次男坊は春に中学3年になります。

これまた何に向かっているのでしょうか？2人とも見守る毎日です。私は毎日忙しくしています。体力の衰えを感じて毎日奮闘しております。こんなに動けなくなるとは思ってもいなかったです。が、もう少し頑張ります。体力が続く限り頑張っていく予定です。



12月例会 クリスマス讃美礼拝 於；西那須野教会 2022. 12. 10

12月第1例会(クリスマス讃美礼拝)報告

日時：12月10日(土)午後6時～

場所：日本基督教団西那須野教会

出席者：河野、田村、村田、張、藤生の各メンバー、田村、村田メネット、ゲスト：原田、潘牧師ご夫妻、那須聖園老人ホーム2名、養徳園15名、西那須野教会員4名、ギデオン協会1名、計32名

恒例のクリスマス例会を、日本基督教団西那須野教会の礼拝堂を会場に行いました。新型コロナ新規感染“第8波”の真只中のためゲストが出席出来るか心配しましたが、感染対策をしっかりと整え、「養徳園」の子供達や先生方、「聖園那須老人ホーム」の方、「西那須野教会」会員などを迎え、賑やかに開催することが出来ました。

第1部は「キャンドルサービス」を行いました。礼拝堂のパイプオルガンの音色に包まれながら、キャンドルに点火をして始まりました。讃美歌をキャンドルの幻想的な灯りの中で歌い、そして西那須野教会潘牧師から、『最高の贈り物』をテーマにメッセージを頂きました。『神様は私たちを救ってくださるために“独り子、イエスをお与えになった”』例えば、テレビのクイズ番組ではチャンス(ヒント)が与えられることがある。神様は私たちにイエスというチャンスをお与えになった』『クイズ番組のチャンスは数回と限られるが、神様からお与えいただいたチャンスは祈れば何度でも与えられる、救ってくださる』『最高の贈り物であるイエスに、感謝を込めて祈りましょう』というクリスマスメッセージを頂きました。

第2部は「クリスマス献金の贈呈」として、「養徳園」「聖園那須老人ホーム」「アジア学院」へクリスマス献金を贈呈しました。また「ギデオン協会」から「養徳園」へ聖書の贈呈も行われました。「御園那須老人ホーム」には、タオルの贈呈も行われた。

その後、パイプオルガンの演奏を3曲聞きました。始めに奏楽者よりパイプオルガンについて説明を受けて、音の鳴り方など想像を膨らませながら聞きました。パイプオルガンに親しみが湧くように最近流行ったアニメソングなども演奏に織り交ぜていました。パイプオルガンの壮大な音色に、クリスマスを迎える幸せを感じる事が出来ました。

コロナ禍とは言え、多くの方が参加して開催することが出来た例会は、“喜びに満ち溢れた”クリスマス例会となりました。

北東部大会報告

会長 河野 順子

2022年12月3日午後1時からZoomで行われた。同時間帯に、故原田時近さんの記念会の案内が早くあったので、参加する予定者が決まった後に北東部大会の案内があり、参加が河野のみとなった。内容は次の通りです。

北東部部長 大久保知宏氏あいさつで始まった。

1. 北東部各クラブの自己紹介

第2回北東部評議会での報告とほぼ同じであったが、石巻広域クラブのDBCは神戸ポートクラブと東京むかでクラブであるという活性化されていること、これは開設7年という若さ故か、それに限らず活動的メンバーの集まりなのか羨ましいというか、做らなければならぬのか印象的であった。

2. あいさつ 北東部部長 大久保知宏(宇都宮クラブメン)、公益財団法人とちぎYMCA理事長 鷹 箸孝(宇都宮東クラブメン)、東日本区理事 佐藤重良(甲府21クラブメン)。佐藤理事の報告では、東日本区ワイズメン平均年齢66.余才、北東部62.9才で一番若い部であると。何とこの記録は破られないよう北東部頑張ろうと思った。ユースの支援活動活発であることなど良い気分のうちに部会始まる。

3. 講演「子どもの sunsun プロジェクトの取り組み」NPO法人とちぎボランティアネットワーク 矢野正弘氏

子どもの貧困撲滅！を目指している宇都宮を中心とした現状報告。フードバンクのお仕事。食品ロスの全体量は、米生産量782万トンの82%である。以上のことが印象に残った。

4. 次期理事 山田公平氏の目指すものを語る

・会員増強事業

EMCをクラブで充実し継続できるか。

どう関心をクラブメンバーに持たせるか

出席率の上昇

他(多)クラブで出来ていることの情報を得る

会長同士が集まって情報交換をする

他者を誘いたくなるか

世界とつながっている喜びを分かち合いする

5. 大会後、フリートーキングで、会員増強について話し合われた。以下のことが大きな話題であった。

・YMCA維持会員を増やす(チャーター時の数まで)

・CS活動が欲しい(みつかる、つながる、ひろがる) *北東部のCS・Yサ担当としてはボーッとしない言葉

- ・時代の流れかYMCAの本来の働きが見えにくい
- ・事業拡大も必要だ。だからワイズメンバーを増やし本来のYMCAの働きを支援していきたい
- ・あるクラブは入会時一万円下げている（若い人には会費も負担）

Y ‘の活動の質がキーワード

終わったのは、午後6時であった。

1月（第2例会（役員会）報告

日時：12月16日（金）午後4時から

場所：田村副会長宅

出席者：河野会長、田村副会長、村田副会長、平山担当主事

1. 1月新年例会について

日時1月14日（土）午後2時から、原田晴子さん宅で開催する。最初の計画では、午後4時からとしていたが、コロナ感染拡大に伴い、食事の会はやめて、お茶菓子と飲み物のみで開催する。内容は「新年の目標・抱負を語る」とし、時間があれば会員増強についてのフリートークとする。会費は、500円。準備は、村田がする。ユースリーダーの参加も期待。

2. 2月例会について

内容は、「リーダーによる報告会」とする。2月1日または18日を候補とし、多くのリーダーの参加を。日時の調整は平山主事に一任。2月の役員会で決定する。場所は、西那須野教会。卒業リーダーに対して、卒業記念品をその時に渡す。卒業リーダーは、男子1名、女子4名の予定。

3. 2月役員会（第2例会）について

1月27日（金）午後4時30分から、田村副会長宅で行う。

4. その他

・シイタケ昆布の購入を1月下旬に行う。500グラムと250グラムを合わせて注文をすることも検討する。

旧西那須野（那須西原）の緑と水（第116回）

田村修也

三人目が鍋島 幹という人です。鍋島さんは明治元年（1868）に24歳で初代栃木県令（知事）になった方で、明治13年迄、長年にわたって県知事を務められ、現在の栃木県の基礎を作られた方です。こうして、神さまの御計画の実現とも言うべき、鍋島県令、印南、矢板両総名主の三人の出会いが実現したのです。明治9年（1876）10月29日

のことでした。国の地租改正と言われる税制改正が行われ、従来の年貢米による納税方式から貨幣による納税方式に変わることの説明会が大田原宿で開催され、地元有力者に対して鍋島県知令が説明に当たりました。説明会が了承のうちに終了したその夜、印南、矢板、鍋島の三人が火鉢を囲んで地域発展のための話し合いを進める中で、印南さんが「この地域には那須野が原といって、広大な未利用の原野があって、何とか開拓できないものだろうか。」と口火を切り、矢板さんも日頃から考えている那須野が原開拓の重要性を語り、三人意気投合して活発な話し合いになっていきました。

鍋島県令は、「東京から40里、160kmという近い場所に、そのような開拓有望の地があるなら、県としても何とかしなくてはならない。幸い那珂川は水量豊富だから、鬼怒川まで運河をつくれれば、那須郡、塩谷郡の生産物を船の便で東京へ送ることも出来るし、東北地方の生産物も運搬でき、その水を農業用水として利用すれば、開拓も順調に進めることが出来る。」という提案をしました。鍋島県令は、日本各地や海外の運河事情を知っていたのでしよう。当時は馬か人間が物資を運搬していたので、舟による大量輸送はまさに流通革命でした。印南、矢板両氏は鍋島県令の提案のスケールの大きさに圧倒されましたが、まさに理に適っていて、県令の積極的な支援も取り付けられたので、早速調査に入ることに致しました。この時、鍋島県令は32歳、印南さんは45歳、矢板さんは27歳という年齢でした。

次の年の明治10年（1877）1月3日に、那須郡、塩谷郡の農村指導者が集まって会議を開いた時に、印南、矢板両氏は、地域開発のために那須野が原の開拓は急務であること、鍋島県令との話し合いをもとに運河開鑿の説明をしたところ、出席者全員の賛同が得られました。そこで、早速翌日の1月4日に運河のルート調査に出発しました。この日は大雪であったと記されています。この後、測量の専門業者を交えて調査が繰り返された結果、明治12年（1879）4月21日に調査が完了して、設計が出来上がりました。

それによりますと、水路の総延長約50km、高低差約352m、河川横断5か所、水門52か所、橋梁61か所、総工事費16万5千円というものでした。当時の大工の賃金が1日当り24銭ですから、これを現在価格約2万円として換算しますと、約140億円という莫大な事業費になります。この事業費では、民間では負担できるものではないので、鍋島県令を通じて、明治12年6月26日に、伊藤博

文内務卿（総理大臣）あてに、国営運河開鑿事業として実施されるよう請願陳情致しました。これが第1の疎水計画です。しかし、明治政府は財政困難からこの巨額を要する事業は採択には至りませんでした。これは明治10年2月に西南戦争が起こり、政府の1年間の歳入に匹敵する戦費が投入されたという事情があります。しかし、明治10年4月には南一郎平他が開拓可能地の全国調査に派遣されています。

その後、印南さんと矢板さんは、何度も何度も上京して政府に陳情し、何とか伊藤博文総理大臣に那須野が原の現地を視察してもらえるよう努力を重ね、約6か月後の明治12年（1879）11月14日に、伊藤博文総理大臣と松方正義大蔵大臣の来駕を得て、那須野が原を案内し、烏ヶ森の頂上において開拓と運河の構想を、印南さん、矢板さん、そして鍋島県令とで説明することが出来ました。この絵を見て下さい。お手許の資料⑪と⑫を拡大したものです。今皆さんが立っている、まさに、この場所において、那須野が原開拓と運河開鑿の説明が行われたのです。（以下次号に続く）

▶明治35年頃の農場略図と現在の地図



西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園
西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光男

「子どもが『本をよんで!』というのは『一緒にいて!』ということです」(松井直)

松井直(ただし)さんは、キリスト者で先月帰天されました。保護者の皆様に購入していただいている月刊絵本の福音館の社長をされていました。そして、「ぐりとぐら」や「だるまちゃん」とてんぐちゃん」に代表される多くのロングセラー絵本を編集者として世に出されました。今から20数年前になりますが、本園の研修で福音館の見学を訪れた際、たま

たますれ違い挨拶を交わしたことがあります。その月刊絵本の編集現場では、2年後に出す月刊絵本の編集をされていました。「打ち合わせから入れると1冊の月刊絵本が出来上がるまで3年間かかる」と説明を受け、驚いたことを覚えています

今年のクリスマス会でも、私は子ども達から、いくつもの素晴らしいプレゼントをいただきました。カンタータ、合奏、合唱はもちろんですが、そのほかに1つだけご紹介します。

4年保育・年少組のクリスマス会での幕の間に大型絵本の読み聞かせがありました。その間、ホール全体に静寂が訪れ、私は不思議な感覚に包まれました。子どもだけでなく、保護者の皆様も一心に目と耳を傾けておられました。絵本の読み聞かせについて、子ども、ご家庭、そして、園がうまく連携し習慣になっていることが見て取れました。とてもうれしく思いました。

また、本園を休園し、しばらく海外に行かれる園児の保護者から、「子どもが、絵本が好きですので、休園中の絵本はとっておいて下さい」ということを聞きました。

以前にも紹介しましたが、川島隆太(東北大)さんによると、絵本の読み聞かせで、子どもの語彙が増え、親に幸せホルモンと言われるオキシトシンと心を安定させる脳内伝達物質のセロトニンが増えるとのことです。

これも紹介しましたが、「100歳の美しい脳—アルツハイマー病解明に手をさしのべた修道女たち」(DHC)では、修道院のシスター達は、生活のリズム、食生活なども同じ生活環境で過ごしています。そのなかで、認知症になりやすい人とそうでない人がいます。シスター達は、献脳もしたそうですが、いろいろな要因の一つとして、幼い頃に読み聞かせをもらった結果、若い頃には読書の習慣(言語能力)が身に付き、それが認知症になりにくくしていることが言われています。これは、単なる語彙数の問題ではなく、その人の生き方に大きく影響していると考えます。

幼児期は、そのような豊かな読書生活のスタートといえます。年末・年始の間も親子で読み聞かせを楽しみましょう。

(しらゆり 2022. 12. 16 加筆修正)

アジア学院たより

学校法人 アジア学院

アジア農村指導者養成専門学校

校長 荒川 朋子

赦し、赦される「和解」の時 ②

恵子ホームズさんの「和解の旅路」の話が続けます。自分の故郷、三重県熊野町に偶然見つけた、第二次世界大戦中日本軍の捕虜となって村の鉱山に連行され亡くなった16人の英国兵の墓石と記念碑。その前で行われた追悼式に英国から遺族を連れてくることで和解の奇跡に立ち会うことができた恵子ホームズさんはその後もこの活動が続け、実に34年間で520人以上の生存していた元捕虜や彼らの家族、慰安婦の方、また一般市民で東南アジアの収容所に入れられていた方々にも会って謝罪し、和解のために日本にお連れしすることに成功します。初めは恵子さんひとりで行って活動には徐々に協力者が表れ、アガペ・ワールドという組織ができ、日本や世界各地での恵子さんの和解の旅を支援しています。

今年夏、私は恵子さんが私の母校の国際基督教大学で講演をするという知らせを目にして、恵子さんが日本にいらっしゃることを知りました。何とかアジア学院まで足を延ばしてもらえないかと思い周囲に話していると、黒磯の家の教会シオンの久留生夏江先生が恵子さんと以前からお知り合いで、10月に恵子さんを那須にお招きしていることを知りました。そこから話が一気に進み、10月19日にいよいよ恵子さんをアジア学院にお迎えすることが実現しました。

その日、恵子さんは集まった多国籍のアジア学院のコミュニティメンバーの前で、ご自分の辿ってこられた「和解の旅路」について淡々と話され、アジア学院のメンバーはそれに聞き入っていました。やがて質問の時間になり、その中でインドネシア人の学生が立って、本当のことを言えば自分はこれまで日本人に対していい思いを抱いていなかった。同じような複雑な思いをしているインドネシア人はたくさんいる。でも今恵子さんの話を聞いて、自分の中でその嫌な思いは消えた。だから今度はインドネシアに来て、同じような証言をしてほしい、そうすれば和解に至れるかもしれないというようなことを発言しました。恵子さんはそれに対し、謝罪の言葉をまず伝え、自分は過去にインドネシアに行ったが、呼んでくださればいつでも行きますよ。私が行けるように祈ってください、ということをおっしゃって

いました。

実はこのことを聞いていたアジア学院のメンバーの中には、恵子ホームズさんの古くからの友人で、アジア学院で10年以上カウンセリングを行ってくださっているジョセフ・オザワ先生（日系アメリカ人）がいました。オザワ先生はコロナ禍が始まって以来アジア学院を訪問することはできなかったのですが、その時3年ぶりに、たまたまアジア学院に滞在していて、恵子さんと20数年ぶりに再会したのです。

インドネシア人の発言を聞いていたオザワ先生は、その時私の方に歩いてきて、私の耳元で、「朋子、今この部屋にいる日本軍によって被害を受けたアジアの国々の学生たちに前に出てもらって、今から謝罪の時を持とう」と提案しました。私はそれが何を意味するのかよくわからないまま、オザワ先生がそう提案するならばと了解し、皆の前に出ました。

そしてマレーシア、東北インド、インドネシア、ベトナムの学生11人が呼ばれて、ひとりひとりが皆の前に進み出て、恵子ホームズさん、恵子さんのアシスタントのもうひとりの圭子さん、そして私を囲んで輪になりました。恵子さんと圭さんは皆がそろろうとすぐさまひざまずいて、頭を下げ始めました。私も彼女たちに続いてひざまずいて、床に手をついて、恵子さんたちがするのと同じように、深々と頭を下げ、声を出して謝罪をしました。

私は頭を下げて下を向いた状態でしたから私たちを取り囲む学生たちや、それを見ている他のメンバーの顔は見えませんでした。皆驚いた様子でいるようでした。やがて彼ら、彼女らからすすり泣く声が聞こえ、数人の学生が「もういいから、もういいから」と私たちの手を取って立ち上げてくれました。その後は、手を取って立ち上げてくれた学生たちと優しくハグし、静かな涙の時間がしばらく流れ、私は赦し、赦されていく体験をしたのでした。この続きはまた次回に書かせていただきます。

YMCAだより

【とちぎYMCA 12月の3Days スクール・ワンデイスキー①②が無事に終了しました！】

12月下旬にありました、冬っこ3Days・ワンデイスキー①②が予定通り実施され無事に終了いたしました。今年は早い時期から寒かったこともあり雪がたくさん降り、スキーレッスンに影響も無く無事にゲレンデがオープンし思う存分滑ることができました。

冬っこ3Days では1日目に竹馬やけん玉などの昔遊びやオリジナルカルタ作り。2日目はマウントジーンズで雪遊びを行い、最終日は餅つきやかなるた大会を行うなど今の季節ならではのプログラムとなりました。

また、1月にも雪遊びキャンプやスキーキャンプに向けて準備が進められています。子どもたちはプログラムの中で有意義な時間を過ごし、普段は出来ない体験をすることが出来ました。子どもだけでなく、子どもたちと向き合うことでリーダーとして共に成長することができました。



ユースリーダーのつぶやき

1. 名前 (リーダー名) 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCA に入ったきっかけは? 5. 思い出に残った活動とその理由は? 6. 今後の進路は? 7. YMCAに一言

今月は休みます

【とちぎYMCA・那須YMCAの1月の予定】

・ 1/7(土)～1/8(日)年始ウィンタープログラムスタート

那須エンジョイスキーキャンプ@なす高原自然の家
マウントジーンズ

・ 1/7(土)～1/8(日)那須ウィンターキャンプ@なす高原自然の家 マウントジーンズ

・ 1/14(土) サタデークラブ@宇都宮動物園

・ 1/21(土) サタデークラブ@宇都宮動物園

・ 1/28(土) サタデークラブ@大沼公園 (雪遊び)